

2018年9月期 第2四半期 決算補足説明資料

.....

株式会社フィックスターズ
(東証一部3687)

2018年5月10日



本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があります。ご了承ください。

目次

1. 2018年9月期 第2四半期決算説明
2. 2018年9月期 通期業績予想

目次

1. 2018年9月期 第2四半期決算説明
2. 2018年9月期 通期業績予想

2018年9月期 第2四半期 決算発表サマリ

■ 全体

■ 本社増床及び棚卸資産評価減をこなしつつ増収・増益を達成

- ・ 売上高： **2,369百万円**（前年同期比 **+11.6%**）
- ・ 営業利益： **483百万円**（前年同期比 **+26.1%**）

■ 下期は新規事業への投資を積極化

■ セグメント

■ ソフトウェア・サービス

- ・ 自動運転関連を中心に高速化事業が安定成長
- ・ エンジニア採用が進みプロジェクト規模が順調に拡大
- ・ ライフサイエンス関連で量子コンピュータ導入支援を初受注・初売上

■ ハードウェア基盤

- ・ 医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードが引き続きけん引
- ・ 大容量高速ストレージ・サーバ“Olive”の事業戦略変更に伴い、現行機種
の棚卸資産評価減を実施

決算概要：損益計算書

- 本社増床及び棚卸資産評価減をこなしつつ増収、増益を達成
- ソフトウェア・サービス事業が安定して収益貢献

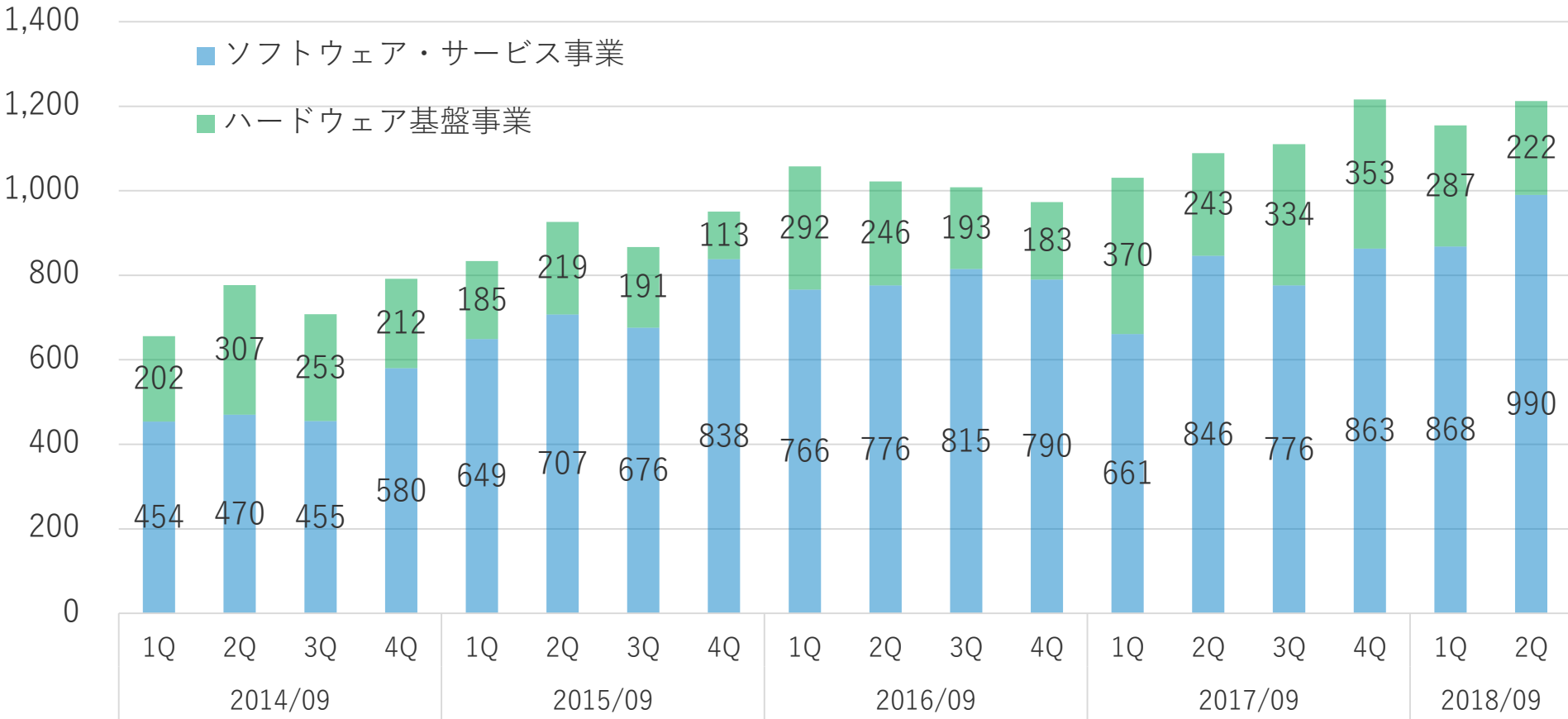
(単位：百万円)

項目	前第2 四半期累計	当第2 四半期累計	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	通期業績 予想(修正後)
売上高	2,123	2,369	+246	+11.6%	5,000
営業利益	382	483	+100	+26.1%	1,000
売上高 営業利益率	18.0%	20.4%	+2.3pt	-	20.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	258	353	+95	+36.9%	720
売上高 当期純利益率	12.2%	14.9%	+2.8pt	-	14.4%

業績：売上高

- ソフトウェア・サービス事業が引き続き安定して業績貢献
- 第2四半期として過去最高を達成

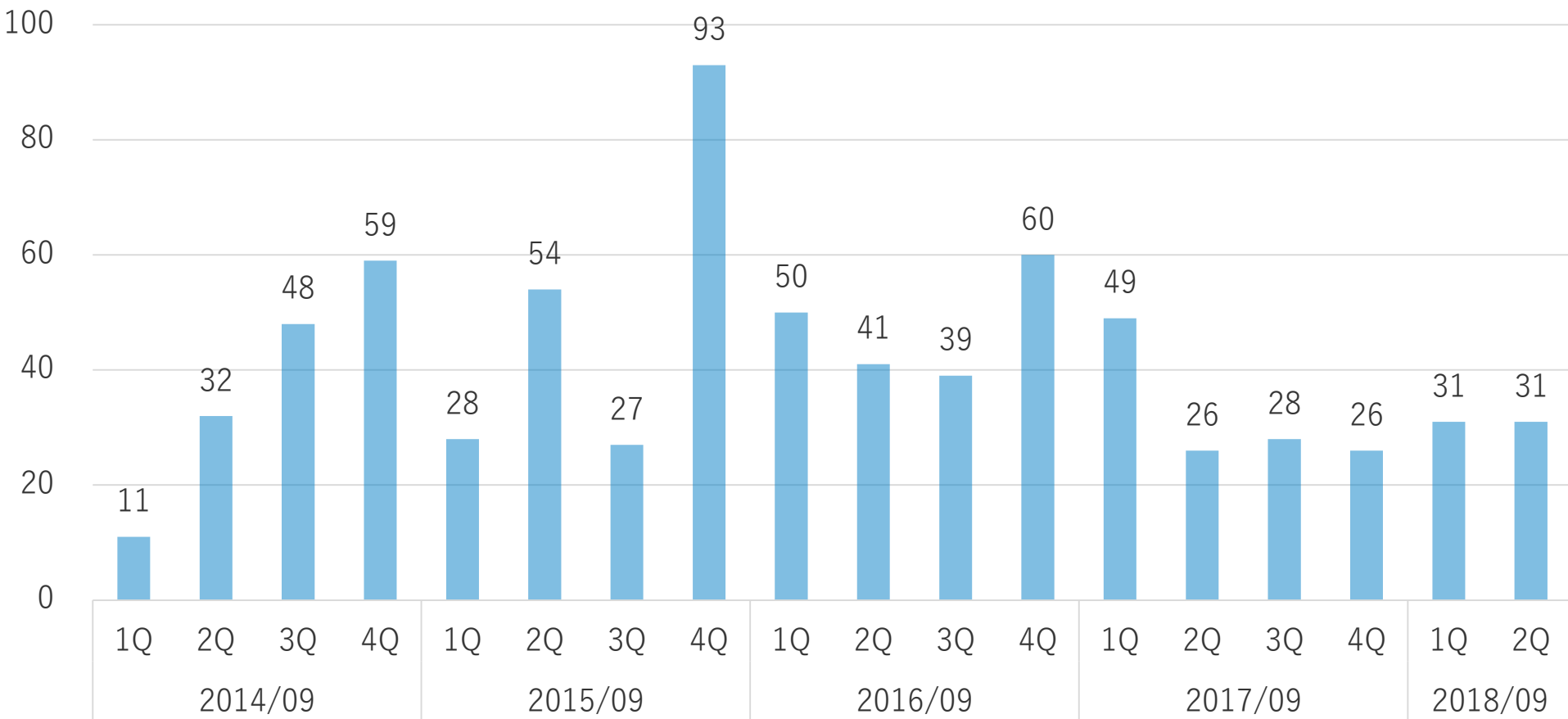
(単位：百万円)



業績：研究開発費

- ハードウェア関連の開発費が一服
- 自社ソフトウェア製品に関連する人件費や外注費を中心に費用計上

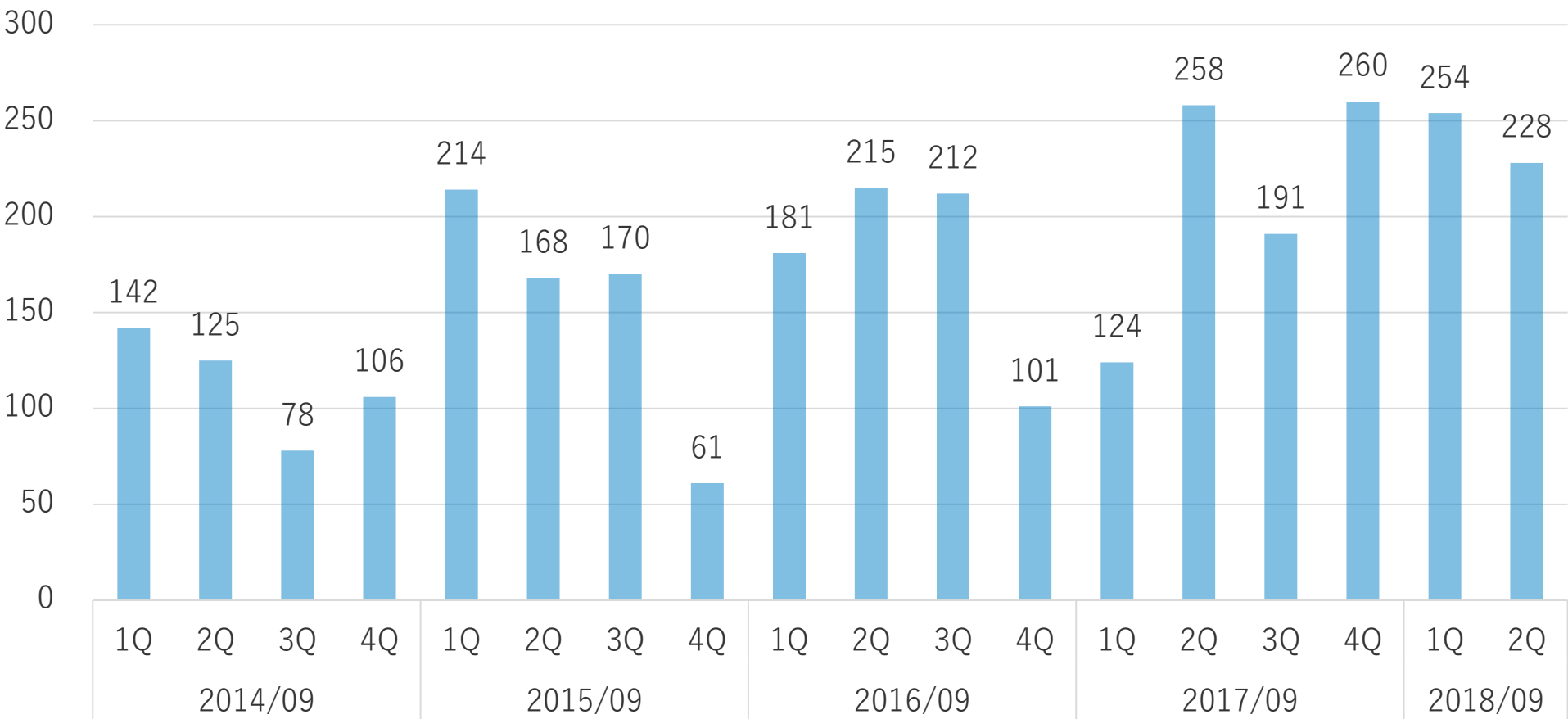
(単位：百万円)



業績：営業利益

- ソフトウェア・サービス事業を中心に安定して収益計上
- 2Qは大崎本社増床や“Olive”の棚卸資産評価減により前年同期比減

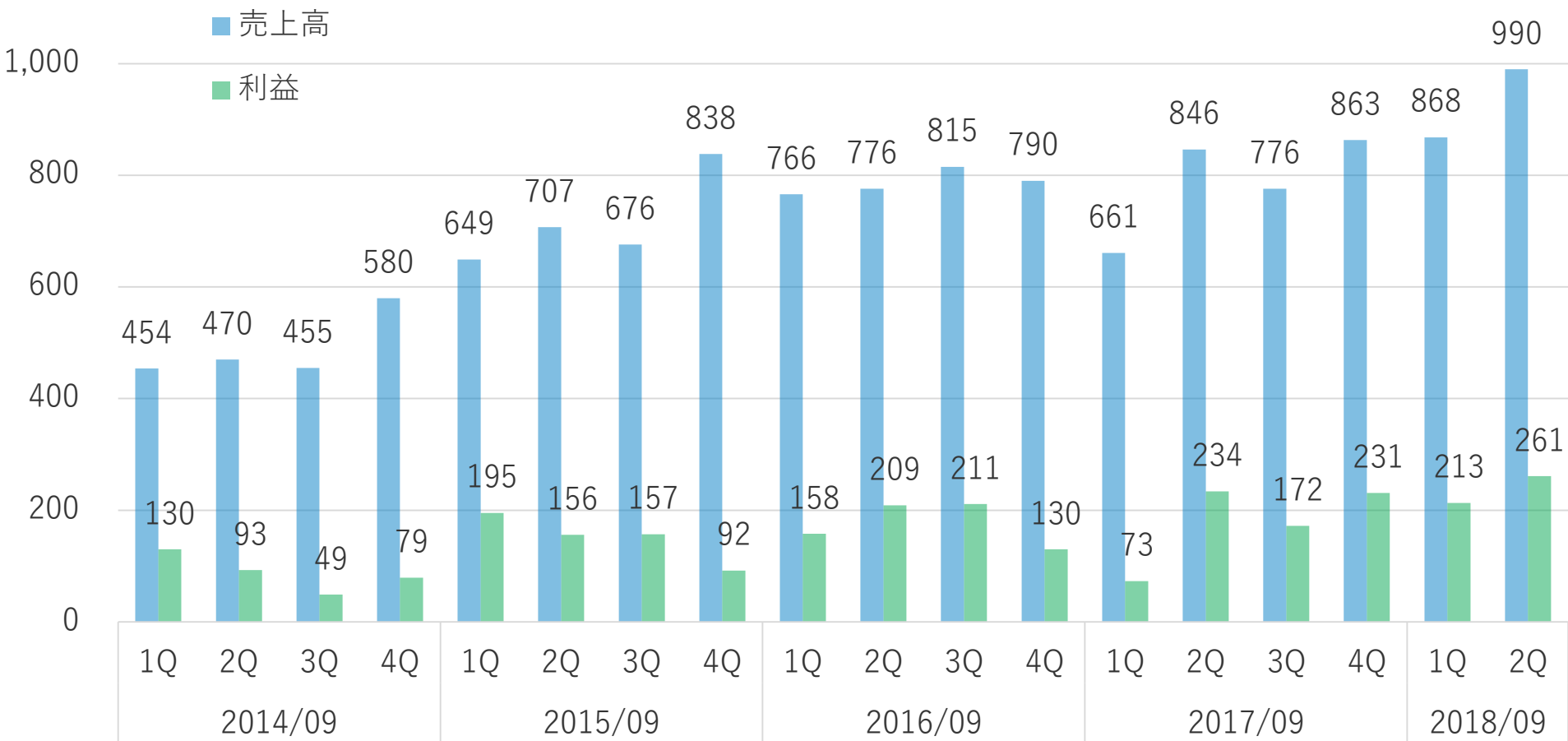
(単位：百万円)



業績：ソフトウェア・サービス事業

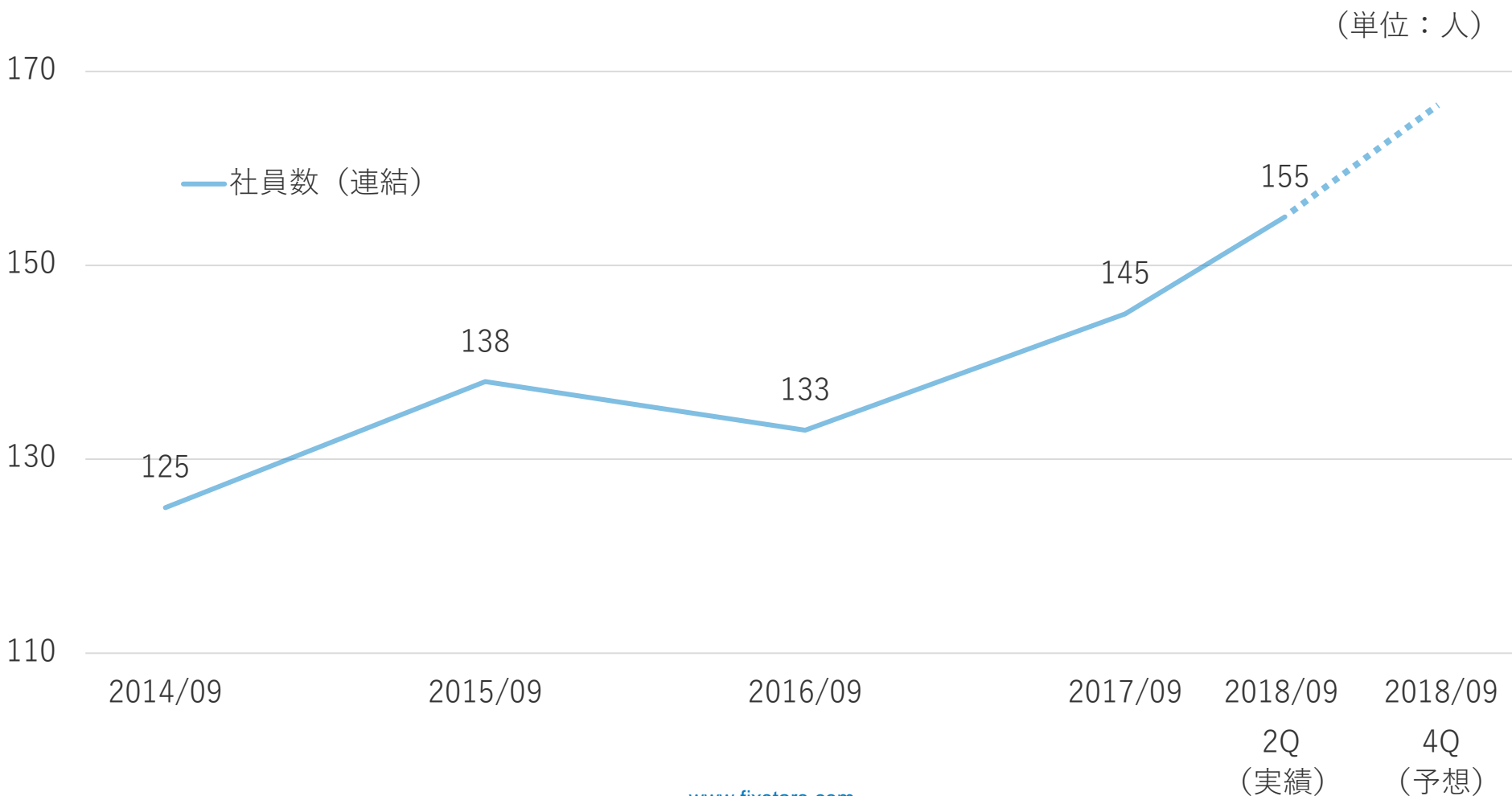
- 自動運転を中心に旺盛な需要が継続
- プロジェクト規模拡大を反映し過去最高売上高・利益を達成

(単位：百万円)



業績：社員数推移

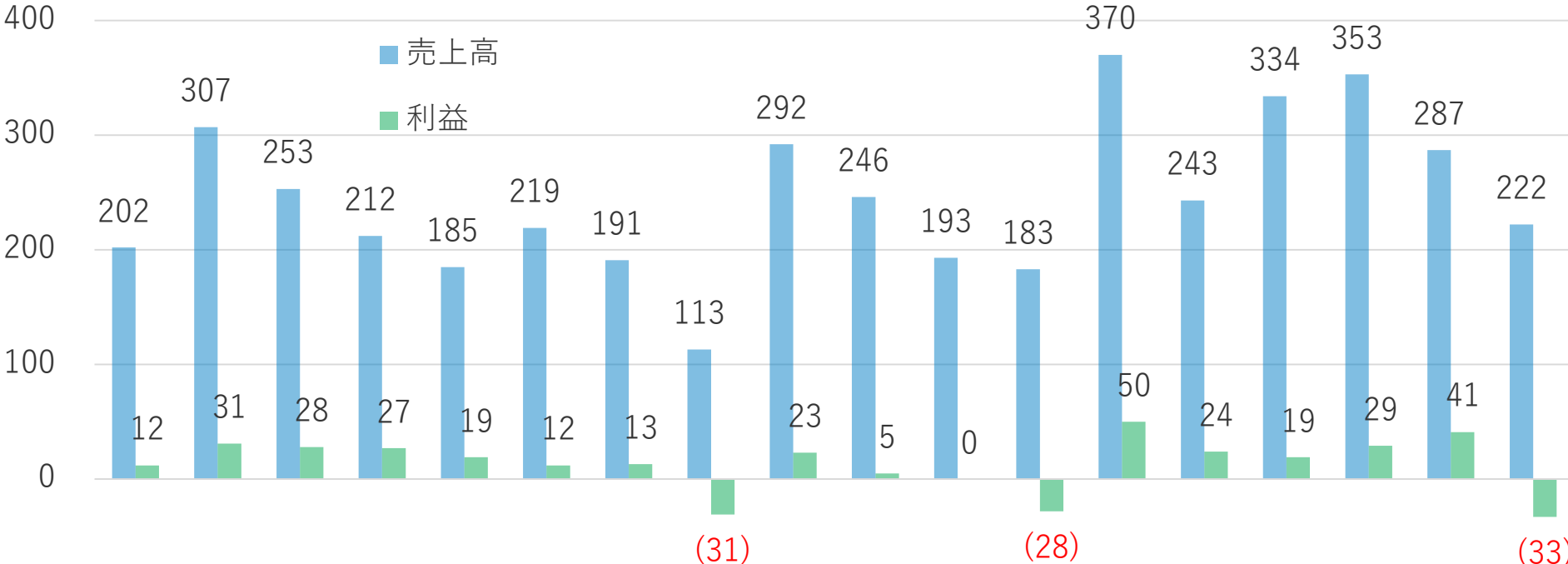
- 採用活動に多くのリソースを割き、新卒を中心にエンジニア採用が好転
- 期末には160人台後半の社員数を見込む



業績：ハードウェア基盤事業

- 顧客需要を反映し画像処理プロセッサ搭載演算ボードが対前年同期比減
- 大容量高速ストレージ・サーバ“Olive”の棚卸資産評価減を実施

(単位：百万円)



(100)

1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
2014/09				2015/09				2016/09				2017/09				2018/09	

業績：“Olive”の棚卸資産評価減

- エッジコンピューティングの本格導入に向けハードウェア仕様を変更
- 仕様変更に伴い、現行機種在庫分 53百万円の評価減を実施

“Olive”の使用用途

製造現場の各機器からデータを集め
その場で機械学習を行う



エッジコンピューティングを本格導入するためには
相対する2つのニーズを同時に満たす必要がある

リアルタイム性などの
性能アップ

大量仕入に耐えうる
水準へコストダウン



フィックスターズの対応

HW仕様の変更

FPGAから低コスト
の汎用CPUへ変更

特定のセンサに注力

リアルタイム性を追求
できるAEセンサに特化

アルゴリズム軽量化

ソフトウェア高速化
技術の活用

新規事業：自動運転子会社

- 旺盛な需要に合わせてソフトウェア開発・高速化サービスが順調に拡大
- 半導体IPコア提供を目指し、コンパイラの開発を加速

半導体IPコアの提供

- 専用チップ向けIPコアの開発・提供を予定
- ネクスティ社と協業し顧客ニーズを把握
- IPコア向けコンパイラの開発を加速

ネクスティ社との合併会社
“Fixstars Autonomous Technologies”を設立



株式会社ネクスティ
エレクトロニクス

豊田通商グループとして
国内外に強固な顧客ネット
ワークを保持

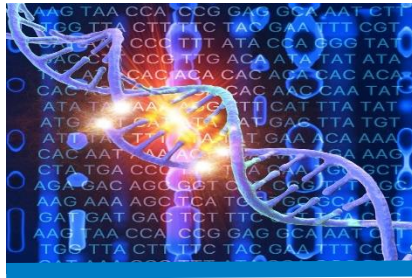
ソフトウェア 開発・高速化

- 自動運転の実現に向けたソフトウェア開発・高速化サービスを提供
- ネクスティ社のネットワークを活用し、需要を安定的に取り込む
- エンジニアリソースを積極的に投入し順調に事業拡大中

新規事業：量子コンピューティング事業

- 対応機器を増やし顧客ニーズに合わせたサービスを提供
- ライフサイエンス分野への導入支援を提供し初売上を計上

代表的な適用分野



ライフサイエンス



インフラ



製造業

フィックスターズのソリューション

アニーリングマシン活用に向けた導入支援サービス

各マシンの利便性向上につながるミドルウェア等の提供

対応機器

D-Wave
量子コンピュータ

日立製作所
CMOSアニーリング
マシン

富士通
デジタルアニーラ

目次

1. 2018年9月期 第2四半期決算説明
2. 2018年9月期 通期業績予想

2018年9月期 通期業績予想のポイント



■ 全体

■ 売上、利益ともに上方修正

- 売上高： **5,000百万円**（前期比 **+12.3%**）
- 営業利益： **1,000百万円**（前期比 **+19.7%**）

■ 新規事業への投資を積極的に行い成長を加速

■ セグメント

■ ソフトウェア・サービス

- 自動運転関連を中心に既存事業の安定成長を実現
- エンジニア採用が進みプロジェクト規模が拡大
- 自社ソフトウェア製品開発に対する投資を拡大

■ ハードウェア基盤

- 医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードが安定貢献
- ソフトウェア開発と組み合わせたソリューションを提供。顧客の量産体制入りに合わせ、新規ハードウェア提供を予定

2018年9月期 通期業績予想（上方修正後）

2018年9月期 業績予想

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
2018年9月期 業績予想	5,000	1,000	1,000	720
2017年9月期 実績	4,450	835	813	557
増減率	+ 12.3%	+ 19.7%	+ 23.0%	+ 29.1%

配当予想

	1株当たり 年間配当金	1株当たり 当期純利益	配当性向
2018年9月期 予想	6.5円	21円72銭	29.9%
2017年9月期 実績	25.0円	16円65銭	29.7%
2016年9月期 実績	23.0円	15円47銭	29.9%

※当社は2018年4月1日付で、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益金額については、2016年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

※ 2018年9月期の配当金額は、分割後の株式数で算出しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の配当金額は、32.5円であります。